



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

中秋の名月と科学の進歩

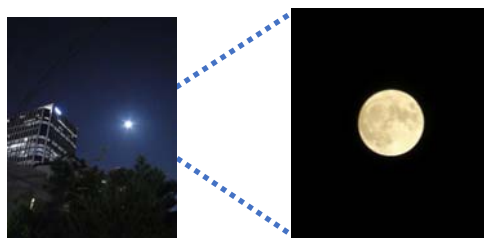
歯科放射線科 診療科長 荒木 和之

今年10月1日は旧暦8月15日にあたり、中秋の名月でした。コロナウィルスの流行で、たくさんで集まったの観月とはいかなかったと思いますが、皆さんはいかがでしたでしょうか。日本では月には餅つきをするウサギを見ている。ヨーロッパでは大きなハサミを持つカニ、アラビアでは吠えるライオンなど、様々な言い伝えがあります。人類は昔から月をみて様々な感情を抱いてきたようです。それが本当はなんなのかという好奇心が満たされるのは望遠鏡が発明されガリレオ・ガリレイ (Galileo Galilei) が月に凹凸 (クレーター) を発見するまで待たなければいけません。遠くのものの観察にはさらに電波望遠鏡など色々な望遠鏡が開発されています。小さい方に目を向けると、顕微鏡がオランダのヤンセン父子によって発明されたと言われていいます (諸説あります)。初めのうちは昆虫の微細構造の観察などが報告されていますが、今では電子顕微鏡の発明でウィルスも可視化されることとなりました。ヒトの

好奇心・探究心は体の中に対しても広がりレントゲン博士によるX線の発見から始まりCTやMRIで体の断面を可視化することもできるようになりました。今ではPETと呼ばれる装置で細胞の代謝の程度をある程度は可視化できるようになっています。歯科の分野でも顕微鏡を使った歯の治療や歯科専用のCTなど最新の技術革新が取り入れられどんどん進歩しています。



美しい月を見ながら、ヒトの強い好奇心・探究心が新しい知識への道を開いてくれることを感じて美味しいお団子を頬張るひとときでした。もちろん最後には歯磨きも忘れませんでした。



- P1 巻頭言 中秋の名月と科学の進歩
- P2 診療科紹介 歯科放射線科
- P3 新入職員挨拶
- P4 部署紹介 臨床研究支援室
編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

■ 患者さん向け、 ■ 医療機関向け、 ■ お知らせなど

歯科放射線科は、歯科病院創設以来、歯科病院内のX線を用いた画像検査のほとんどを引き受けております。歯や顎骨内に発生した疾患は、通常、表面からは観察することはできません。この見えないところを写し出すのがX線検査で、治療の方向性を決める上で重要な役割を担っています。そのため、われわれはX線写真の質にこだわり、診療に役立つX線写真の提供を心がけております。また、X線検査は必ず被曝を伴うため、被曝対策などを常に行っております。検査の際、できる限り撮影時の苦痛を少なくするように配慮しておりますが、一部の撮影ではセンサーなどの器具をお口の中に入れるという特性上、多少不快な思いをされるかもしれません。治療に役立つ質の高い画像を得るために、若干我慢していただくことをお願いいたします。

通常の撮影業務は、主に武 俊夫係長のほか4名の診療放射線技師が担当しております。歯科医師は主に画像診断、画像管理、CT検査における造影剤の投与や超音波検査などの業務を行っております。また、昭和大学病院放射線科との関係を深めながら、歯科病院にはないMRI検査などの画像検査にも関わっております。

当科は地域の歯科医院との連携も積極的に行っており、歯科画像センターとして検査依頼も積極的に受けております。特にインプラントの画像検査は30年近くにわたり年間700例以上の検査を行っております。

図1～3に当科で使用しているCT装置を示します。



図1
歯科用コーンビームCT装置1：
歯および周囲の構造を立体的に把握します。座った状態で撮影し、装置が顔の周りを360°回転します。この装置は主に小さい範囲に使用しています。



図2
歯科用コーンビームCT装置2：
顎骨の構造を立体的に把握します。座った状態で撮影し、装置が顔の周りを360°回転します。この装置は主に矯正治療やインプラントの検査に使用しています。



図3
CT装置：顎骨病変やインプラントの検査に使用しています。寝台に寝た状態で撮影します。病気によっては造影剤を使用します。

当科の歯科医師は荒木和之診療科長のほか常勤歯科医3名、大学院生1名および非常勤歯科医数名のスタッフで診療、研究、教育を行っております。また診療放射線技師とともに、当科は撮影技術や診断技術の向上、新しい診断装置の開発や装置の管理方法の開発などに努めているところです。

われわれ放射線科医は担当医として患者さんに接することはありませんが、何かご不明なことがございましたら、お気軽にスタッフまで声をかけていただきたいと思います。

新入職員ご挨拶

顎顔面口腔外科 助教（歯科） 筑田 洵一郎

今年度より口腔外科学講座の助教として入職いたしました筑田洵一郎です。

私は岩手医科大学歯学部を卒業後、昭和大学歯科病院にて1年間臨床研修を行いました。研修後は口腔外科診療の傍ら、国立がん研究センター・研究所の細胞情報学分野に所属し、「口腔癌における抗癌剤耐性メカニズム」について4年間研究を行い、貴重な経験をさせていただきました。

そこで私は、これまでに得た知識と経験を生かし、大学人として科学的根拠に基づくより良い診断、治療のために研究や診療を行い、また地域医療機関や関連各診療科との連携に貢献していきたいと考えています。長年にわたり、先輩方が培ってきた歴史と伝統を大切に“臨床・研究・教育”に従事して参りますので、皆様のご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

新入職員ご挨拶

口腔腫瘍外科 助教（歯科） 永井 大輝

昭和大学歯学部口腔外科学講座口腔腫瘍外科学部門新入職員の永井大輝です。

北海道函館市出身で、明治大学法学部に入学後、岩手医科大学歯学部編入学し、歯科医師になってから東京に上京しました。

口腔腫瘍外科ということで、専門性の高い部署になりますので、一般の方もいれば、多

数の疾患を持った方などと幅広い患者さんと接していくことになり、いろんな疾患、それに応じた悩み等を抱えた患者さんのことを理解し、親身になって寄り添える歯科医師を目指します。当然、そのために日々努力して患者さんの笑顔につながるよう精進します。よろしく申し上げます。

新入職員ご挨拶

歯科麻酔科 助教（歯科） 原 あきら

2020年度4月より、全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門歯科麻酔科に入局いたしました、原あきらです。新入職員紹介の記事を書かせていただく機会をいただき、ありがとうございます。

私の所属する歯科麻酔科では、患者さんにとって負担の大きな口腔外科の手術をはじめ、歯科治療が恐くてなかなか治療を受けられない患者さん、障がいのある患者さんといった幅広い方々を対象に、全身麻酔や静脈内鎮静法などの全身管理の技術を用いて、安

全な歯科治療のサポートをしています。

日々の臨床の中で、一人一人、持っている持病や背景の違う患者さんに対し、安全な全身管理を行うには、多くの知識と技術が要求されるため、全身管理の難しさ、麻酔の奥深さを実感しています。

毎日が反省と勉強の繰り返しですが、これからもたくさん経験を積み、患者さんと真摯に向き合い、より安全で快適な治療を提供できるように成長していきたいと思っております。

部署紹介：臨床研究支援室

臨床研究支援室は、昭和大学歯科病院で行われる臨床研究や治験に関する手続きなどを支援する部署です。当院は大学の医療施設であるため、診療と同時に教育と研究という使命があります。従って自分たちの専門分野と知識を活かし、医療技術を開発するために研究や治験を行なっています。臨床研究には過去の診療情報を用いる「後ろ向き研究」や、患者さんの参加の同意を得て新しい治療法を探る「前向き研究」などがあります。

治験とは、「薬や医療機器の候補」を実際患者さんに使用していただき効果や安全性を確認するもので、身近な話題では新型コロナウイルスのワクチン開発がこれに該当しますが、当院では主に歯科用医薬品や機器・材料の治験を行っています。これら臨床研究や治験はそれぞれに守るべき法律に従い、倫理的かつ個人情報保護を行っていくことが大切です。そのため研究や治験は院内に設置されている臨床試験審査委員会（倫理委員会）の審査を受け、病院長に許可されないと実施することができません。

臨床研究支援室は、研究を計画する先生方に事務的なサポートや、研究計画へのアドバイス、また研究の進捗確認、治験の全般的サポートを行っています。また昭和大学全体でも附属8病院で連携しながら、業務のスキル

アップと最新の臨床研究倫理を職員に伝達しています。

このように昭和大学歯科病院では大学病院としての責務を果たすべく研究にも力を入れており、将来の多くの患者さんへ貢献できるよう精進しております。昭和大学歯科病院で実施される臨床研究や治験に御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

臨床研究支援室 副室長 阿部 誠治



臨床試験審査委員会（IRB）の様子



臨床研究支援室スタッフ

編集後記

今年もあと2か月半となりました。今年には日常のごく小さなできごとを、普段よりも有難く味わうことができたようにも思います。物事は何事も捉え方次第かもしれませんね。誰もが元気でwithコロナ時代を乗り越えられますように。

(Y.M)



四国お遍路にて 撮影者：原瀬 裕一